

(2) 河北地区

現況

河北地区は、本市の北東部に位置し、地区の中心部には追波湾へ注ぐ東北地方最大の河川である北上川が、西部には石巻湾へと注ぐ旧北上川が流れ、北上高地から連なる上品山、硯上山などの山々、リアス式海岸を有する三陸海岸、白鳥の飛来地である富士沼や長面浦など、多彩な自然に恵まれた地区です。

本地区では、これらの多様な環境を活かした産業が営まれており、農業は法人化が進み、稲作を中心に麦・大豆など様々な農作物が作られています。その他にも林業や漁業などが営まれ、「河北せり」「べっこうしじみ」「長面力キ」など多くの特産品が作られています。

観光では、道の駅「上品の郷」は県内2番目の入込数を誇る道の駅であるとともに、温泉も併設されており、地元住民にも愛される重要な施設となっています。そのほか、サマーフェスタ・イン・かほくやフェスティバル・イン・かほくなどの市民に愛されるイベントも開催しています。食文化では、特産の河北せりを使用したせり鍋などのほか、古くから飯野川地区で料理の出汁として利用されてきたサバだしに着目した「サバだしラーメン」など新たな名物も生み出されています。

また、地域コミュニティの活性化や地域の人材育成を目指した取組も行われ、幅広い文化・屋内スポーツ・学習・交流活動を行うことができる「河北総合センター（ビッグバン）」、世代を問わず屋外スポーツに親しむことのできる「追波川河川運動公園」など文化スポーツ施設が充実しています。

文化としては、各地区に古くから伝えられている神楽が有名で、県指定無形民俗文化財である「皿貝法印神楽」は1615～23年に本吉郡戸倉村から伝えられたと言われており、現代に受け継がれています。皿貝法印神楽のほかにも、市指定無形民俗文化財の飯野川、後谷地、福地、釜谷長面尾の崎法印神楽をはじめ、各地区において多くの民俗、芸能文化が継承されています。

道路交通基盤では、三陸縦貫自動車道の河北インターチェンジが地区内にあることにより交通の利便性が高く、本市の中心部に位置し、飯野川橋や新北上大橋など橋りょうも整備されていることから、市内各地区へのアクセスの拠点として重要な役割を果たしています。

東日本大震災後に整備された二子団地には、河北地区・雄勝地区・北上地区より移住した約400世帯が居住しており、市内半島沿岸部の移転団地では最大規模の防災集団移転先となっています。

また、大川地区には、慰霊・追悼の場とするとともに、震災被害の事実や学校における事前防災と避難の重要性などを伝承するため「震災遺構 大川小学校」を整備しています。

主要課題

本地区では、少子高齢化に伴い、一部地域において地域を担う後継者が不足しており、地域コミュニティそのものの維持が困難になってきている地区もあります。また、防災集団移転団地である二子団地では、複数の地区からの移住者が居住していることから、新たなコミュニティの形成に時間を要しています。

農業については、効率的・安定的経営体の育成及び後継者・新規就農者を確保し、安定した農業経営の確立を一層推進するとともに、近年増加している有害鳥獣の被害対策が必要となっています。

漁業については、陸地と隣接した環境で行われており、排水処理などによる漁業への影響が懸念されることから、環境への配慮が求められています。

商業については、郊外型商業施設の進出により、旧来の商店街からの顧客が流出し、個人商店の閉店などが進行していることから、商店経営の近代化などが課題となっています。

災害対策については、近年、大雨時に住宅や農地・水路などに甚大な被害が発生していることから、既存の排水処理施設などの見直しや内水排除への対策が求められているとともに、地区面積の多くを山林が占めていることから、森林整備を推進することにより土砂災害を防止するなど災害対応体制を構築する必要があります。

将来展望

観光振興及び地域振興の拠点である道の駅「上品の郷」を活用し、上品山や長面浦などの豊かな自然環境、さらには「河北せり」「長面カキ」「べっこうしじみ」などの特産品を活用したイベントを実施することにより、地域の活性化を図るとともに、「河北総合センター（ビッグバン）」などの文化施設を活用した文化行事などの取組が行われ、世代間交流が発展した活気ある生活が営まれています。

施策展開の方向

- 既存の住宅地や新たに整備された復興団地ともに地域住民の交流や地域活動を支援し、地域コミュニティの活性化を図ります。
- 医療と介護の連携推進、保育や子育て支援における安全安心など、様々な課題に総合的かつ包括的な支援が行える体制の強化に努めます。また、地域住民の自助・互助による健康づくりや介護予防への取組、身近な地域における支え合いの取組を推進します。
- 「河北総合センター（ビッグバン）」や「追波川河川運動公園」などの文化・スポーツ施設の利活用促進を図り、交流活動やスポーツを通じた関係人口の拡大や住民の健康の保持増進を図ります。
- 身近な生活道路を整備するとともに地域性を考慮した公共交通体系を構築し、**市民生活**や経済活動の利便性向上と地域の活性化を図ります。
- 地震や水害などの自然災害への対策を推進し、関係機関との連携の強化や自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。
- 農林漁業の安定した経営体の育成と担い手の確保を図り、有害鳥獣による被害対策や環境への配慮に努め、地域産業の振興を図ります。
- 非可住地域について、土地の有効活用を図るために、農業用地などによる利活用を推進し、地域の活性化に努めます。
- 道の駅「上品の郷」を経済・情報・交流の場とし、旧来の商店街と連携して地域のにぎわいを創出し、地域振興と観光振興を図ります。
- 「皿貝法印神楽」をはじめとする各地域に伝わる「神楽」などの伝統芸能を地域独自の文化として広く周知し、伝統文化の存続に努めます。

(3) 雄勝地区

□ 現況

雄勝地区は、本市の東部に位置し、太平洋に面した雄大なリアス式海岸を有しているほか、西部には北上山系から連なる硯上山がそびえ、国の指定を受けている天然記念物「八景島暖地性植物群落」や市指定天然記念物「雄勝荒魚竜化石群」があるほか、太平洋を一望できる「白銀崎」はみやぎ新観光名所 100 選に選ばれるなど多彩な自然を有する風光明媚な地区です。

本地区は水産業が盛んで、「ホタテ」「うに」「あわび」「かき」「ほや」「ぎんざけ」「わかめ」などの多彩な海産物を有しています。特に「かき」や「ホタテ」の養殖業が盛んであり、山間部と海が近く、豊富な栄養素が山から海へと流れることにより良質なものが育つことで有名です。

600 年以上の伝統を誇る国指定の伝統的工芸品「雄勝硯」の原料である「雄勝石」は、古くから硯の原料のほか屋根材などに使われる「雄勝石スレート」に加工されています。平成 24 年に完成当時の姿に復元された東京駅丸の内駅舎の屋根材にも使われています。

令和 2 年には、雄勝中心部地区拠点エリア「硯上の里おがつ」に、震災により被災した「雄勝硯伝統産業会館」や「雄勝観光物産交流館（おがつ たなこや）」が再建・新設され、地区の観光・商業の振興、地域振興の中核を担う施設として期待されています。

そのほかにも、大須崎灯台は「恋する灯台」として平成 30 年に認定され、新たな観光スポットとして期待されているほか、国の重要無形民俗文化財である「雄勝法印神楽」、宮城県指定無形民俗文化財である名振地区の「おめつき」や「伊達の黒船太鼓」など、伝統文化による観光振興も期待されています。

また、震災により地区内にあった雄勝病院が全壊したことにより、平成 23 年 10 月に開設した仮設診療所が地域医療を担ってきましたが、平成 29 年に雄勝診療所・雄勝歯科診療所が開所し、重要な地域医療の拠点としての機能を果たしています。

□ 主要課題

東日本大震災により、震災前の居住者の多くが地区外や他市町村などへ転居、転出し、令和 2 年 9 月時点で震災前の人口の 4 分の 1 程度である約 1,150 人に減少したほか、全国的に加速する人口減少、少子高齢化の影響もあり、高齢化率の上昇による地域コミュニティの存続そのものが大きな課題になっています。

交通体系は、住民の生活において極めて重要であるほか、交流人口の拡大という観点からも欠かせない要素となっています。

産業については、基幹産業である水産業の担い手不足や、伝統産業である硯工人の後継者不足が深刻化しています。

名振地区の「おめつき」をはじめとする地域の特色ある伝統文化が、人口減少や少子高齢化などによる担い手不足により存続が困難になっています。

将来展望

リアス式海岸特有の自然環境を活用した養殖業を中心とした水産業や雄勝石を活かした地場産業や観光事業による地域振興が行われるとともに、関係人口の増加、移住・定住を促進することにより豊かな生活が営まれています。

施策展開の方向

- リアス式海岸特有の雄大な海岸景観や山間部の豊かな自然環境、豊富な特産品など豊かな地域資源を活かした交流人口の拡大、情報発信や資源の有効活用による移住・定住の促進を図り地域コミュニティの存続に努めます。
- 市内他地区へのアクセスがしやすい、地域のニーズを踏まえた持続可能な地域公共交通体系を形成します。
- 住民の生活や交流人口の周遊に関わる道路網の整備促進を関係機関に働きかけ、住民の利便性向上や地域の活性化を図ります。
- 地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。
- 地域の医療ニーズに対し柔軟に対応できる仕組の構築や共に支え合う仕組づくりを推進します。
- 豊かな森と海の恵みに育まれたホタテ、岩ガキなど新鮮な地場産品の地域ブランドの確立や高付加価値化を図り、地域基幹産業である水産業の振興や水産業の担い手確保に努めます。
- 持続的に自然資源を活用できるよう、有害鳥獣対策や自然環境の保全活動などを推進します。
- 古くからの伝統を誇る「雄勝石」などを地域資源として連携しながら活用し、地域観光の活性化を図るとともに、長い歴史を持つ「雄勝硯」や天然スレートなどの雄勝石産業を支える担い手の育成・保護育成し、貴重な地域資源として活用を図ります。
- 「雄勝法印神楽」や名振の「おめつき」「伊達の黒船太鼓」などの伝統芸能を継承するための活動を支援するとともに、地域独自の文化として広く周知し、伝統文化の存続に努めます。

(4) 河南地区

■ 現況

河南地区は、本市の西部に位置し、桜の名所として知られる県立自然公園「旭山」を中心とした丘陵地帯と、広大な美しい田園が広がる地区です。東日本大震災後には、一部の地域に新しい住宅地が整備され、半島沿岸部から内陸部への移転により人口が増加しました。

本地区は農業が基幹産業で、旧北上川の豊かな水に育まれた肥よくな土地を利用した稲作が盛んであり、「ササニシキ」「ひとめぼれ」などの良質米や、大豆、大麦などの畑作物の産地となっています。施設園芸においては「きゅうり」をはじめ、「トマト」や「イチゴ」など多彩な野菜の生産が盛んであり、東日本大震災後には、沿岸部の被災した園芸農家の早期営農再開に向けて、須江地区に 3.9ha の施設園芸団地が整備されました。整備された園芸団地では、環境制御機器や養液・養液土耕栽培システムなどを備えた最新式の施設で生産に取り組んでいます。

さらに、東日本大震災後に須江地区に整備した「須江地区内陸型産業用地」は、震災により被災した企業や、復興事業などによって移転を余儀なくされた企業の移転先として整備され、食品加工業や建設・運輸関連業など 25 社が移転・立地し、多くの人が働く産業用地となりました。

観光においては、桜の名所である「旭山」があり、春になると桜が満開になり、訪れる人の目を楽しませてくれます。明治時代後期に造られた日本庭園である国指定名勝「齋藤氏庭園」では、庭園から背後の丘陵地まで一体感のある空間が近代庭園として高く評価されており、春の桜、初夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色と、四季折々の風情が楽しめるほか、庭園の付近には宝ヶ峯遺跡があり、縄文時代後期の土器などが発掘されています。

また、江戸時代から続く伝統的な祭りである市指定無形民俗文化財「鹿嶋ばやし」のほか、大沢南部神楽や和漕・鹿又法印神楽などの伝統芸能が受け継がれています。

多目的ふれあい交流施設「遊楽館」においては、文化ホール、アリーナ、室内プール、図書館などの施設が、文化交流や健康増進、生涯学習の拠点として活用されるとともに、隣接する国際公認コースの「かなんパークゴルフ場」では、冬期間も利用できる立地条件を活かし、市民の健康増進を図るとともに、各種施策と連動した活用が期待されています。また、市内外の方が利用できる「旭山体験農園」や「旭山農業体験実習館（コロボックルハウス）」では、自然に親しみながら農業体験・交流活動をすることができます。

■ 主要課題

移転による人口の増加でベッドタウン化が進み、それに対応した道路網などのインフラ整備や公共交通体系の整備が追いついていない地域がある一方で、急激な人口の減少や少子高齢化が課題となっている地域もあります。

内陸部に位置していることから、東日本大震災時には津波の被害はなかったものの、地震による建物などへの被害が多くあったことや、平成 15 年に発生した宮城県北部連続地震により、家屋の倒壊や急傾斜地の崩壊など大きな被害を受けていることから、今後も災害に対する対策が必要です。河南地区の多くが浸水想定区域に該当しており、近年大型の台風の発生が増えていることなどから、台風や大雨時における住民の避難経路の確保や、地区の里山整備による山林の土砂災害防止機能の強化などが求められます。

石巻河南道路について、住民の生活道路と物流道路の機能分離を図り、交通の安全性の向上のため、関係機関と協力し、整備を推進する必要があります。

産業においては、地区内には多くの農地が存在し、本市の農業生産の中核地となっていることから、効率的な農業を推進するため、引き続き、ほ場整備などの基盤整備を推進するとともに、農業の担い手の確保や六次産業化の推進、持続可能な農業体制を構築する必要があります。

「遊楽館」「かなんパークゴルフ場」「旭山」や「旭山農業体験実習館（コロボックルハウス）」など幅広い世代が活用することができる文化・スポーツ・交流施設があることから、施設の特性を活かし、市内だけではなく周辺地域からの利用者が増加するよう努める必要があります。

将来展望

快適な道路網などが整備され、豊かな農業地区と、快適な都市地区が、それぞれ発展しているとともに、「遊楽館」を活用した文化行事などの取組や、「かなんパークゴルフ場」を活用したスポーツ振興などの取組も行われ、市民が心豊かで元気な暮らしが営まれています。

施策展開の方向

- 「遊楽館」「かなんパークゴルフ場」「旭山」や「旭山農業体験実習館（コロボックルハウス）」などについて、市内だけではなく、市外からの利用者が増加するよう、施設のメリットを広くPRし、多くの人々との交流の活性化や交流人口の増加を図るとともに、市民のニーズにあった運営に取り組みます。
- 石巻河南道路の整備については、早期の整備完了に向けて、関係機関と協力し、整備を推進します。
- 今後の人口動向を的確に把握しながら、持続可能な公共交通体系の構築や生活道路の整備を促進するとともに、市民ニーズに対応した都市機能の整備を推進します。
- 地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化するとともに、自主防災組織の育成などを通して、安心して暮らせる環境の構築を図ります。
- ほ場整備事業により、優良農地を確保するとともに、用水・排水施設の整備などをさらに進めながら、効率的な営農と低コスト・高品質・高生産性の農業を実現し、安定した農業経営の確立に取り組みます。
- 農業の担い手の確保や販路拡大を図り、基幹産業である農業の振興を推進します。
- 地域住民の自助・互助による健康づくりや介護予防、身近な地域における支え合いの取組を推進します。
- 文化・スポーツ・交流施設を活用した多世代交流やコミュニティ活動を推進し、地域の活性化と伝統や文化の継承に取り組みます。

(5) 桃生地区

現況

桃生地区は、本市の北西部に位置し、登米市など県北地域への交通の要衝となっています。震災時に命の道としての機能を発揮した「三陸縦貫自動車道」が地区内を縦断しており、地区内には桃生豊里インターチェンジと桃生津山インターチェンジの二つのインターチェンジを有し、本市と県北地域をつなぐ物流、地域間交流、有事発生時に重要な役割を果たすなど、交通の大動脈として幅広い機能を果たしています。

地区の東部には北上川、西部には旧北上川が流れ、豊かな水資源を有し、それらを活かした稲作が盛んに行われています。そのほかにも、「小ねぎ」や「ガーベラ」などの施設園芸が行われており、貴重な北限のお茶である「桃生茶」なども栽培されています。畜産業も盛んであり、特に宮城県の「基幹種雄牛」として有名な「茂洋号」は桃生地区で生まれていることから、「茂洋の郷づくり」とした産地化の動きも推進され、「桃生牛」のブランド化なども行われてきました。

文化としては、全国に類のないリズムカルな民俗芸能で、豊年踊りとして古くから伝わる「はねこ踊り」が有名で、多くの踊り手が「はねこ踊り」を披露する「ものうふれあい祭り」などのイベントが開催されているほか、県指定の無形民俗文化財である「寺崎法印神楽」「檜崎法印神楽」などがあります。

古くからの歴史があり、西暦 758 年には蝦夷に対する軍事拠点として桃生城が築城されるなど古来より人々の生活が営まれていたほか、旧町時代よりチュニジア共和国との交流が行われるなど幅広い文化や歴史を有しています。

主要課題

東日本大震災発生直後は、半島沿岸部から移転を余儀なくされた方が地区内に転居するなどして、一時的に人口が増加したものの、その後の人口減少により、地域コミュニティの希薄化や、子どもと地域の関わりの減少、人口流出が懸念され、地域の均衡ある発展を推進するための新たな地域振興策を必要としています。

農業、畜産業ともに、担い手不足の深刻化などによる耕作放棄地の拡大が進行していることから、担い手の確保を推進するとともに、農畜産物の安定した生産体制と競争力の高い地域ブランドの確立を目指す必要があります。

「はねこ踊り」や各地区の「法印神楽」などの伝統文化は、地区の活性化を図るうえで重要な役割を果たしていますが、後継者不足が懸念されています。

公共交通網が少ない地区であることから、通勤や通学、通院や買い物など住民ニーズに対応し、住民が利用しやすく、安定した運行を維持できる住民バスの体制を構築する必要があります。

内陸部に位置していることから、東日本大震災時には津波の被害はなかったものの、地震による建物などへの被害が多くあったことや、北上川、旧北上川に囲まれ、豊かな水資源を有していますが、一方で、台風・豪雨などの自然災害による甚大な被害も想定されることから、今後も災害に対する対策の構築が必要です。

将来展望

肥よくな大地を活かした稲作、安定した生産が可能な施設園芸、ブランド化による高い競争力を有した畜産業などバランスの取れた農業が発展し、地域協働のまちづくりを推進することにより、誰もが安心して地域に住み続けることのできる社会が営まれています。

施策展開の方向

- 人口減少や少子高齢化に対応するため、多世代交流や地域住民同士のコミュニティ活動を推進するためのイベント開催や地域拠点施設の適正な整備に努め、地域で支え合う仕組みづくりを積極的に進めます。
- 移住希望者の移住・定住につなげるため、情報発信や資源の有効活用を図るとともに、快適に日常生活を送れるよう生活基盤の整備や各種生活支援を推進します。
- 肥よくな大地を活かしたバランスの取れた農業、競争力の高い畜産業を展開し、そこから産出される多種多様な農畜産物を活用し、耕地の有効活用や地域の活性化を図ります。
- 地域農業や農産物のブランド化、販路拡大を推進し、基幹産業である農業の担い手確保に努めます。
- 地域性を踏まえた公共交通体系の構築を推進し、住民生活や経済活動の利便性向上と地域内交流などの活性化を図ります。
- 三陸縦貫自動車道桃生豊里インターチェンジ、桃生津山インターチェンジの立地を活かした産業の活性化を図ります。
- 地域住民の自助・互助による健康づくりや介護予防、身近な地域における支え合いの取組を推進します。
- 「はねこ踊り」や各地区の「法印神楽」などの伝統芸能により地域活動を活性化するとともに、交流人口を拡大し、住民のコミュニケーションの場の創出と地域間交流の充実を図り、地域コミュニティの活性化や伝統文化の後継者育成や史跡などの活用を図ります。
- 地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、防災施設の整備や排水対策、自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに総合防災対策の充実を図ります。

(6) 北上地区

現況

北上地区は、本市の北東部に位置し、東北随一の大河「北上川」を河口に持つ追波湾に沿った東西に細長い地区です。海岸は「三陸復興国立公園」に指定されており、三陸特有のリアス式海岸が続き、沖合には海ツバメやウミネコなどの繁殖地として知られている鞍掛島、双子島などの島々が点在しています。翁倉山は、国の天然記念物に指定されている「いぬわし」の営巣地として知られ、北上川の河口には「残したい日本の音風景 100 選」にも選ばれているヨシ原の大群落が開放的な空間を造りだしています。ほかにも、鯨伝説で有名な「神割崎」、幾多の地震にも耐え抜き、受験の神様として有名な「釣石神社の巨石」など、自然を活かした観光資源が多くあります。

地区の特色のひとつとしては、住民団体を中心とした行政と住民が連携した地区活性化への取組も積極的に行われており、東日本大震災により被災した施設などを再建し、地区の拠点となる「にっこり地区」は、住民主体による計画の策定が行われました。

こうした取組により完成した拠点は、行政、教育、子育て、コミュニティ活動など生活に必要な公共機能を集約させた地域の拠点としての役割が期待されます。

産業面では、豊かな自然環境の中で多様な一次産業が営まれており、北上川の豊かな水資源を活かした稲作を中心とする農業や、海水と真水がほどよく混じる追波湾で育った十三浜の「わかめ」「こんぶ」「ホタテ」などの海産物、北上川で採れる「しじみ」などが特産品として生産されています。

また、東日本大震災後に橋浦地区に整備された「トマト」や「パプリカ」を生産する大規模園芸施設では、木質バイオマスや地中熱利用のヒートポンプなどのエネルギーを活用した農業の実践など、新たな農業生産への取組も行われているほか、十三浜地区では震災による津波被害を受けた移転元地を活用し、「北限のオリーブ」を栽培するなど、新たな産業への取組も行われています。

震災後に整備された観光施設としては、「白浜ビーチパーク」「北上観光物産交流センター」などがあり、交流人口の増加など新たな観光拠点として期待されています。

文化としては、市指定の無形民俗文化財として、「女川法印神楽」「大室南部神楽」が伝承されています。

主要課題

全国的に加速する人口減少、少子高齢化の影響や東日本大震災後の地区外や他市町村への転居、転出者の増加により、令和 2 年 9 月時点での高齢化率が約 43%と他の地区と比較しても高くなっており、多世代交流の機会の減少などによる住民同士の関わりの希薄化の進行、特に若者がコミュニティの輪に入らないなど、地域コミュニティの課題が顕著になっています。

交通体系については、公共交通機関が少ないことから、主要道路の整備を推進するとともに、通学や通勤などの住民ニーズに対応し、誰もが利用しやすく、安定した住民バスの運行体制を構築する必要があります。

農業、水産業共に、少子高齢化による後継者不足が深刻化しており経営基盤が不安定なものになっています。

将来展望

住民と行政が連携した地域活性化の取組を推進し、稲作、施設園芸、畜産のバランスの取れた農業、海、川の恵み豊かな水産物、「ヨシ原」「神割崎」などの風光明媚な自然景観など、豊かな地域資源を活用することにより、交流人口の増加、移住・定住の促進が図られ、観光事業も活性化した豊かな地域社会が営まれています。

施策展開の方向

- 豊かな地域資源の魅力を発信し、交流人口の拡大や移住・定住の促進を図るとともに、多世代交流の機会を増やし、若者がコミュニティの輪に入る取組を行なうことなどにより、地域コミュニティの活性化を推進します。
- 地区に居住している住民が快適に日常生活を送れるよう生活基盤の整備を推進し、安全安心に居住できる地域社会の構築を推進します。
- 安定した地域医療体制を維持するとともに、地域の医療ニーズに対し柔軟に対応できる仕組の構築や共に支え合う仕組づくりを推進します。
- 住民の利便性向上や定住促進を図るため、市内他地区へのアクセスがしやすく、地域のニーズを踏まえた持続可能な地域公共交通体系を形成します。
- ほ場整備事業や水産基盤整備事業などにより農林水産業の産業基盤を確立し、生産環境の改善と経営体の育成を図るとともに、生産性の高度化と生產品の高付加価値化などを図ります。
- 非可住地域について、土地の有効活用を図るために、農業用地などによる利活用を推進し、地域の活性化に努めます。
- 全国的に有名な北上川の「ヨシ原」や「神割崎」などの観光資源と豊富な農林水産物などを活用して地域産業の確立を図るとともに、写真セミナー「太平洋写真学校」など自然を題材としたイベントを企画することで都市住民との交流を図り、豊かな自然環境の活用を促進します。
- 持続的に自然資源を活用できるよう、有害鳥獣対策や自然環境の保全活動などを推進します。
- 「女川法印神楽」や「大室南部神楽」などの伝統芸能を地域独自の文化として広く周知し、伝統文化の存続に努めます。

(7) 牡鹿地区

現況

牡鹿地区は、本市の東部に位置し、三方を海に囲まれた牡鹿半島の先端部に位置する網地島と金華山の2つの離島を有する地区で、1億年以上前に形成された地層も見られます。

海岸線は、三陸特有のリアス式海岸になっており海の青と山の緑が調和した風光明媚な景観を有していることから「三陸復興国立公園」に指定されています。

本地区は、豊かな漁場に恵まれた水産業が基幹産業となっており、漁船漁業や養殖漁業が盛んに行われ、「わかめ」「かき」「ほや」「ほたて」「銀鮭」や「鯨」など多くの特産物があります。

また、鮎川は、古くから近代捕鯨の基地として栄えていましたが、昭和57年の国際捕鯨委員会（IWC）において商業捕鯨モラトリアムが採択され、昭和63年4月以降商業捕鯨は全面凍結されていました。商業捕鯨凍結後は、沿岸調査捕鯨などを行ってきましたが、令和元年には日本の国際捕鯨委員会（IWC）脱退に伴い、31年ぶりに商業捕鯨を再開しました。

全国的にも知名度の高い「金華山」には、年間を通じて多くの観光客や参拝客が訪れ、毎年5月に「金華山黄金山神社初巳大祭」などが開催されています。

また、8月には鮎川で「牡鹿鯨まつり」を開催しているほか、御神木祭や神輿渡御など、各浜での祭事が受け継がれています。

そのほか、おしか家族旅行村オートキャンプ場、御番所公園、網地白浜海水浴場、十八成浜ビーチパークなどの自然を活かした観光施設のほか、東日本大震災後に地域拠点として整備した観光物産交流施設「cottu」、鯨文化を継承する施設として再建した「おしかホエールランド」など多彩な観光施設を有しています。

また、保健・医療・福祉の拠点として、牡鹿病院、牡鹿保健福祉センターを整備しているほか、図書館や温水プールなどを完備し、健康増進などを目的とした牡鹿交流センター「ほっとまる」もあり、市民の健康増進、福祉向上に活用されています。

主要課題

全国的に加速する人口減少、少子高齢化の影響や東日本大震災により、地区外や他市町村への転出者などの増加により、令和2年9月時点での高齢化率が約50%と他の地区と比較しても高くなっており、高齢化による若者不足から地域コミュニティの存続や、これからの地域を担う若者の定住が大きな課題になっています。

また、住民の生活を支える公共交通の整備も重要な課題となっており、地区と中心部のみならず、地区内循環や通学への支援など、住民のニーズに対応した公共交通体系の整備が求められています。

水産業においては、海水温上昇の影響からか漁獲される魚種が変化してきており、漁船漁業は不振が続いています。加えて、福島第一原子力発電所事故の風評被害や対日輸入規制の継続で、震災前の販路を取り戻せないままとなっています。水産業の維持や捕鯨文化の継承のため、担い手の確保をすることが急務となっています。

観光業については、豊かな自然資源や特産品などを活かし、観る観光から体験する観光へ自然環境と共生した観光振興に取り組む必要があります。

本地区は平坦地が少なく、台風や豪雨による土砂災害などの被害が危惧されることや、自然災害により半島沿岸部主要道路へ被害が及んだ場合には、中心部への交通手段を失うなどの課題を抱えているほか、立地する女川原子力発電所の安全性確保のための監視体制の強化、避難体制の構築や防災情報の発信などの取組が必要となっています。

将来展望

豊かな漁場を活用した漁業と、捕鯨文化や金華山など豊かな観光資源を活用した観光事業を推進することにより地域の活性化が図られるとともに、豊かな自然環境など固有の地域資源を活かした交流人口の増加と移住・定住を促進し、安全安心で持続可能な地域社会が営まれています。

施策展開の方向

- 住民主体で開催するコミュニティ活動や地域イベントの開催、地域で継承される文化活動などを支援し、地域コミュニティの継続を維持します。
- 住民の利便性向上や定住促進を図るため、地域のニーズを踏まえた持続可能な地域公共交通体系を形成します。
- 移住希望者の移住・定住につなげるため、情報発信や資源の有効活用を図るとともに、地区に居住している住民や移住者が快適に日常生活を送れるよう生活基盤の整備を推進し、安全安心に居住できる地域社会の構築を推進します。
- 観光資源と豊富な水産物などを活用して地域産業の確立を図るとともに、三陸復興国立公園の立地を活かしたエコツーリズムによる都市住民との交流を図り、豊かな自然環境の活用を促進します。
- 離島における海上輸送交通を確保するため、金華山定期航路の就航など、より利便性の高い航路運航の確立に努めます。
- 単身高齢者の社会的孤立の解消を目指すとともに、高齢者が安心安全に暮らせるよう、保健・福祉におけるソフト事業の充実を推進します。
- 沿岸海域に広がる豊かな漁場を活用し、地場産品の地域ブランドの確立を行い、地域の基幹産業である水産業の振興を推進します。
- 漁業者の経営安定化に向け、販路開拓、稚魚など放流事業を推進するとともに、後継者育成や新たな養殖事業の展開を推進します。
- 捕鯨文化を継承し、鯨食文化の振興を図ることにより、鯨肉に対する需要を高める取組を推進します。